

論文の和文要旨

| | |
|------|--------------------|
| 論文題目 | アラビア語の限定・非限定の意味と機能 |
| 氏名 | 榮谷 温子 |

本論文の目的は、限定形と非限定形の意味・機能を、特にアラビア語という具体例を通して、明らかにすることである。限定形と非限定形との区別は、それが明らかに形式の上で標示される言語と明示することが義務的でない言語とがあり、アラビア語は前者に属す。

限定・非限定という範疇は、旧情報・新情報やテーマ・レーマ、指示 (reference) 等の問題とも深く関わる概念であり、また、名詞の限定形を義務的に標示することのない言語においてさえ、しばしば統語上も重要な役割を果たすものである。しかし、特に日本語のように限定形と非限定形が形式の上で必ずしも明示される必要のない言語を第一言語とする話者にとっては、限定形・非限定形という区別が当該言語において如何なる意味・機能を担っているか、直感的には判断しがたい。

本論文においては、正則アラビア語及び口語アラビア語において、限定・非限定の名詞句がどのような形式をとり、またその意味するところが何であるかを具体的に明らかにし、さらに、限定形名詞句・非限定形名詞句が、言語の運用面でそれぞれどのような機能を果たしているかを、実際のテキストにおける用例を通して考察する。

本論文は序論、第一章から第四章、および結論から成り立っている。その構成は、あらまし以下のとおりである。

まず、序論においては、本論文の目的および手順や関連する用語の定義などについての説明を行う。アラビア語のラテン文字転写の一覧と略号の一覧もここに含まれる。

第一章では、本論文の主題である「限定」「非限定」という語の定義を、先行研究を踏まえながら明らかにする。まず、一般言語学において限定・非限定という概念がどのように位置づけられているかを概観する。Hawkins (1973) は Location theory において「位置設定可能性」（これは例えば Khan (1988) の言った「親密性」に該当する概念である）と「包含性」とを定性の基準として提唱した。それらの基準は Chesterman (1991) の曖昧なセット理論において、曖昧に、すなわち、限定と非限定という相対立する二項としてではなく、より限定的とかより非限定的なといった「度合い」の差として捉えられることとなった。

また情報構造という観点から、限定・非限定を特に「親密性」という概念を鍵にして、旧情報・新情報やテーマ・レーマ、対比、指示性という、他の情報構造との関わりに着目しつつ、それらとの相違点および関連性について論じ、限定・非限定という範疇が、それらの構造と相関しつつも独立した構造として存在することを明らかにする。

第二章では、アラビア語の限定形名詞句の形式を明示する。この章で取り上げるのは、代名詞・固有名詞・指示詞・関係詞・限定辞である。その際、正則アラビア語および口語アラビア語の双方を取り上げ、両者間の限定形の標示のしかた、特に限定辞の用いられ方の違いを明らかにする。同時にセム語における限定形と非限定形について、具体的にいくつかのセム系言語を取り上げ、限定形・非限定形がどのような形式で示されるか、特に限定辞の問題を中心に説明する。

さらに、限定形名詞句の中にも、より限定的な名詞句やより非限定的な名詞句が存在することが言われてきた。これに関連して、アラビア語の古典文法学で論じられてきた定性の度合いの問題を、言語学の分野で提唱されてきたいいくつかの名詞句の階層、例えば Gundel, Hedberg & Zacharski (1993) の Givenness Hierarchy などとの比較なども交えながら、検討する。

第三章では、アラビア語の限定形名詞句と非限定形名詞句との使い分けについて、戯曲 “‘Arafa Kayfa Yamūtu” における実際の用例を通して具体的に分析し、その結果を通して限定・非限定という枠組みは、テキストの送り手側によって能動的に運用され得る可能性を持つ情報構造であることを示す。

加えて、アラビア語の限定辞の特色づける要因として、アラビア語には英語の null article にあたる名詞句の状態がないことを指摘する。

第四章では、さらに限定形名詞句の様々な形式の果たす役割を、テキストという観点から分析する。その際、staging という概念や視点論などを踏まえて、いろいろな種類の限定形名詞句を使い分けることでテキストに及ぼされる効果（視点の切り替え、場面の転換など）について、コーランの物語テキストにおける実例を通して明らかにする。また、テキストの種類あるいはその目的によっても、限定名詞句の諸形式の使い分けの仕方に違いのあることを、実例を挙げつつ示す。

最後に結論においては、各章で明らかにしてきた限定・非限定に関する諸事項をまとめ、正則アラビア語と口語アラビア語との相違点などを整理する。